

都市再生整備計画 事後評価シート

丹陽町出張所周辺地区

(原案)

令和7年10月

愛知県一宮市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	愛知県		市町村名		一宮市		地区名		丹陽町出張所周辺地区			面積		34ha		
交付期間	令和3年度～令和7年度		事後評価実施時期		令和7年度		交付対象事業費		749		国費率		0.495			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	事業名														
		基幹事業	【道路】(仮称)外崎1号橋(市道J920号線ほか)、外崎2号橋(市道J497号線)、外崎3号橋(市道J511号線)													
		提案事業	【地域創造支援事業】雨水排水路整備事業													
	当初計画から削除した事業	基幹事業	—				—				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
		提案事業	—				—				—					
	新たに追加した事業	基幹事業	—				—				—					
		提案事業	【事業活用調査】事業効果分析調査				事業効果を分析するための調査を追加。				—					
			—				—				—					
			—				—				—					
			—				—				—					
			—				—				—					
	交付期間の変更	当初	—		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響				—							
		変更	—													
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)		フォローアップ予定時期		
	指標1	防災対策への満足度	%	20.7	R2	22.8	R7	(R3) 14.3 (R4) 19.4 (R5) 14.5 (R6) —	14.5 (R5代替値) ※20.2	△	あり	●	橋梁整備・雨水排水路整備により防災上の安全性を確保する基盤は整った。アンケート数値は目標に届いていないが、市内全体でR7年度の評価値(※)は概ね従前値を維持している。なお、R6年度、R7年度調査結果からは地区周辺在住者に絞った評価値を算出できず、R5年度結果(14.5%)を代替値とした。今後も住民説明会や訓練を通じ意識向上を図る必要がある。	令和8年6月再調査(住民アンケート実施予定)		
											なし					
	指標2	緊急車両の到着時間	%	100	R2	70	R7	—	100 (R7)	×	あり	●	橋梁整備は完了し、道路ネットワーク形成の基盤は確保された。しかし、関連する土地区画整理事業が約2年遅延しており、当初想定した到着時間の短縮効果は未発現である。区画整理の進展と同時に効果が発現する見込みであり、フォローアップ調査により再評価を行う必要がある。	令和9年3月(関連事業完了後に再点検)		
											なし					
	指標3	まちづくりに関する勉強会等の参加人数	人	85	R1	95	R7	(R3) 0 (R4) 91 (R5) — (R6) —	91 (R4代替値)	△	あり	●	コロナ禍により集合形式での勉強会開催が制約され、参加人数は目標に届かなかった。一方で、少人数分散開催を活用し、住民の関心は一定程度維持された。数値は未達ながら、防災意識や地域参画意識の醸成には寄与しており、今後も多様な形式を組み合わせて参加機会を確保することが重要である。なお、R3年度はコロナ禍で実施がなく、R4年度は分散形式で3回開催し合計91人が参加した。R5・R6年度は地区全体での開催がほとんど行われず、記録が残るデータが得られなかったため、R4年度の実績値を評価値として代替値とした。	令和9年3月再調査		
											なし					

	指 標			従前値		目標値	数 値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ
			単位		基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期
3)その他の数値指標 (当初設定した数値 目標以外の指標)に よる効果発現状況	その他の 数値指標1	避難経路の数	経路	2	R2		—	4 (R7)			橋梁更新により複数の避難経路が確保され、通学・通院路としても安全性が向上した。災害時のリダンダンシー（代替性）を強化できたことは、本計画の大きな成果である。なお、本指標の従前値は、河川増水時において橋梁を更新しなかった場合に想定される経路数を設定したものであり、実測値ではなく想定値である点に留意が必要である。	—
	その他の 数値指標2	緊急避難場所までの到着 時間(徒歩)	分	9	R2		—	4 (R7)			橋梁整備により、緊急避難場所までの到着時間が短縮されたとともに、河川増水時においても安心して避難路として使用できる避難経路が確保された。なお、本指標の従前値は、河川増水時に橋梁が未更新でアクセスできなくなった場合を想定して設定しており、実測値ではなく想定値である。	—
	その他の 数値指標3	都市機能誘導区域(丹陽 町出張所周辺地区)への 雨水流入量	m³/s	2.59	R2		—	0.74 (R7)			雨水排水路整備事業により、従前は都市機能誘導区域(丹陽町出張所周辺地区)に流入していた雨水の一部が区域外へ適切に分担されるようになり、流入量は2.59m³/sから0.74m³/sへと大幅に減少した。これにより、局地的な浸水リスクの軽減に寄与するとともに、住民の安心感の向上につながったと評価できる。なお、本指標は実測値ではなく、流出解析に基づく定常条件下での評価値である点に留意が必要である。	—
	その他の 数値指標4	町内会の認可地縁団体化	団体	0	R2		—	1 (R7)			丹陽町外崎の町内会は、橋梁整備をはじめとした防災性・交通利便性の向上を背景に、地域住民の結束や合意形成が進んだ。その結果、地縁団体としての認可を受ける見込みであり、これは地域コミュニティ活性化の大きな成果である。今後は、認可された団体を中心に継続的なまちづくり活動の展開が期待される。	令和9年3月 (関連事業完了後に 再点検)
4)定性的な効果 発現状況	・橋梁整備の完了により防災性や交通利便性が向上し、住民の安心感や生活評価が高まっている。土地区画整理事業は遅れているものの、整備済み施設は今後のまちづくりの基盤として機能発揮が期待され、勉強会等を通じた住民参画の意識も継続しており、その成果として令和7年度末には地元町内会が地縁団体として認可見込みである。											
5)実施過程の評価	実施内容					実施状況				今後の対応方針等		
	モニタリング	防災対策への満足度、緊急車両の到着時間、まちづくりに関する勉強会等の参加人数のモニタリングを実施				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●	毎年度アンケートや記録を継続し、区画整理進展後に再調査・再評価を行う。	
	官民連携による 取組の実施状況	まちづくり勉強会や説明会を開催し、住民から地域防災や交通改善に関する意見を聴取				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●	引き続き年数回開催し、整備効果や区画整理進展状況を共有する。	
	持続的なまちづくり 体制の構築	庁内部署が連携し、計画進行に関する協議・調整を実施				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●	区画整理の進展にあわせ、庁内部署の連携を継続し、フォローアップ調査や関連計画に活かす。	

様式2-2 地区の概要



まちの課題の変化	橋梁整備の完了により、防災性や広域交通ネットワークは改善されたものの、整備効果を十分に発揮させるためには、面的な都市基盤を早期に完成させていく必要がある。 土地区画整理事業の進捗が遅れており、宅地利用の促進や土地利用転換を一層加速させていく必要がある。 コロナ禍により住民参画の機会が制約され、地域コミュニティ活性化が十分でなかったため、多様な手法を通じて住民参画を確保していく必要がある。
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	本事業は、本計画期間をもって終了し、第2期計画として継続しない予定であるが、整備済みの橋梁や道路を最大限に活用し、土地区画整理事業を着実に推進する。 区画整理を通じて都市基盤の完成と防災性の向上を図るとともに、住宅・商業等の立地促進を通じ、生活利便性の向上を図る。 多様な住民参画の機会を設け、住民との合意形成を図りつつ、広域的な都市構造との整合を図り持続的なまちづくりを推進する。